

小学校における

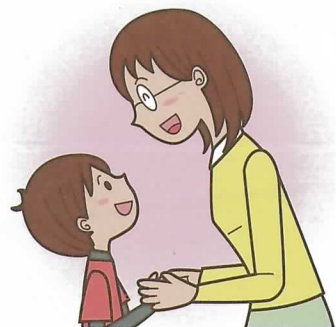
# スクールカウンセラーの 効果的活用



スクールカウンセラーは心の専門家として

## 教員をサポートします

- 児童の不安や悩み, 問題行動を解消するために
- 教員のスキルアップを図るために
- 児童の望ましい人間関係をつくるために
- 関係機関との連携を図るために



仙台市教育委員会



# ～スクールカウンセラーの活用にあたって～

## すべての教員が共通理解しましょう

教育相談計画にスクールカウンセラーの役割を明記し、  
次の点について共通理解しておきましょう

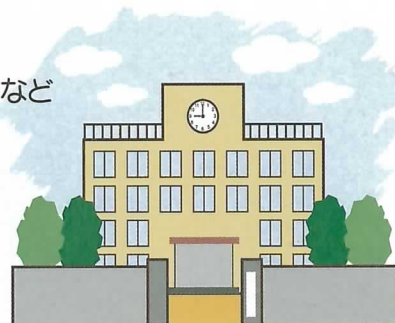
### ●学校の現状

- ・支援を必要とする児童が抱えている課題
- ・担任や学年で対応できていることやできていないこと など

### ●学校の現状を踏まえた教育相談の「ねらい」「組織」「方法」

### ●スクールカウンセラーの役割

- ・スクールカウンセラーとは
- ・学校がスクールカウンセラーにお願いすること



## スクールカウンセラーと教員をつなぐのは「情報」です

■児童の情報を伝え、**スクールカウンセラーからアドバイス(コンサルテーション)を受けること**で、より適切な対応ができるようになります。

■必要に応じて、職員会議やケース会議などに参加してもらうことも効果的です。(勤務予定日が合わないときは、事前に調整することも可能な場合があります。)今後の対応方法や、関係機関との連携などについて、専門的な視点からアドバイスを受けることができます。



教育相談の主体は教員です。スクールカウンセラーは、そのサポート役です。  
児童や保護者への対応が、**スクールカウンセラーに任せきりにならないように留意し**、  
必要に応じた連携が大切です。



### ADVICE!

スクールカウンセラーの活動について、児童や保護者に広く知ってもらうことも大切なことです。そのためには、「児童向けにスクールカウンセラーの来校日を校内に掲示する」「面談や懇談会などを利用して、スクールカウンセラーを紹介し、予約の方法なども伝える」といった工夫をしてみるといいでしょう。



# ～スクールカウンセラー担当教員の役割～

## スクールカウンセラーの活動をコーディネートする役です



## 上手にコーディネートするために

### 勤務スケジュール表の活用

●勤務スケジュール表の例(9:30から勤務の場合)

平成22年 ○月 ○日 ○○小学校	
9:35 2校時 10:20	10:00に、Aさんのお父さんから カウンセリングルームに電話が入る予定です。
10:35 3校時 11:20	○年○組Bさんの授業観察をお願いします。 最近△△な状態が続いています。
給食時間	○年○組で児童と会食をお願いします。
14:35 6校時 15:20	○年○組のCさんのお母さんが来校します。 カウンセリングをお願いします。
放課後	16:00～会議室で○年○組Bさんのケース 会議を行います。

保護者から入った面談の予約について、日時を調整し、予定の中に入れておきます。  
(スクールカウンセラーに直接予約が入る場合もあります。)

担任から要請があった児童について、スクールカウンセラーに観察を依頼します。担任が気になる点も事前に伝えておくといいでしょう。

学校がスクールカウンセラーにお願いしたいことも入れましょう。

放課後の時間を利用して、情報交換やコンサルテーションの機会を設けます。  
※管理職や担任、学年担当教員にもできる限り同席してもらおうといいでしょう。

### スケジュール提示の際に、スクールカウンセラーへ伝える情報

- 担任からの情報
- 児童の観察記録
- 児童の出席状況
- 保護者とのやりとりの内容
- 関係機関での診断結果 など

※スクールカウンセラー担当が担任を兼ねており、このような対応が難しい場合は、教務主任や教頭に依頼しておくのも一つの方法です。





～スクールカウンセラーの専門性を活用しましょう～

## 児童の不安や悩み、問題行動を解消するために

「指導をしているのに改善できない」そんなときは…

### スクールカウンセラーに相談しましょう

- A男は、授業中に勝手な行動をとり、授業を妨害する
- B男は、友達にいたづらをしたり、すぐに暴力を振るったりする
- C子は、登校を渋ることが多い
- D子は、いつも沈んだ表情をしている
- 担任するクラスの中で、いじめなどのトラブルが絶えない など



### そして 児童の様子を見てもらいましょう

児童の様子を  
見てもらうチャンス!

給食時間

放課後

授業中

休み時間

気になる児童の様子やクラス全体の様子を見てもらうことで、今後の対応を一緒に考えることができます。また、**問題行動の未然防止**にもつながります。

※スクールカウンセラー担当教員に依頼し、その日のスケジュールに組み込んでもらうといいでしょう。

#### 教員とスクールカウンセラーと一緒に考えることで…

- 「心の専門家」としての見方や考え方、対応の仕方が分かる。
- 指導や対応の方向性が明確になる。
- 他の教員やスクールカウンセラーと役割を分担して、指導や対応に当たることができる。
- 関係機関との連携が図りやすくなる。

#### 児童や保護者がスクールカウンセラーにつながると…

- 自分自身の心に寄り添ってもらうことで、心の安定が図りやすくなる。
- 学校には相談しにくいことも話ことができたり、解決方法を一緒に考えたりすることができる。



**ADVICE!**

担任が児童や保護者にカウンセリングを勧める場合も、事前にスクールカウンセラーや担当教員と情報交換を行いましょう。児童や保護者の中には「カウンセリングは特別な人が受けるもの」「カウンセリングルームは敷居が高くて…」という先入観をもっている場合もあり、急にカウンセリングを勧めたことで、逆にチャンスを逃してしまうこともあります。



# 教員のスキルアップを図るために



スクールカウンセラーが学校に配置された目的の一つは、教育相談に関する**教師のスキルアップを図る**ことです。問題行動の低年齢化に象徴されるように、様々な課題をもつ児童が増加しており、それぞれのケースに合わせた適切な対応が求められています。

スクールカウンセラーを講師に研修を行うことで、教師自身が幅広い見方や考え方を身に付け、カウンセリングスキルを高めることができます。

どんな研修をすればいいの…

研修を行う際に大切なことは、目的を明確にすることです。上の例を参考に、学校の実態に合った研修テーマを設定しましょう。



時間がなくて…

長期休業中の期間を利用して研修を行っている学校が多いようです。また、研修内容によっては、30分程度の短時間で行ったり、短時間の研修を数回に分けて行ったりすることもできます。



## ADVICE!

スクールカウンセラーは、保護者に対する研修を行うこともできます。懇談会やPTA主催の講演会で講師を務めることで、子育てに対する関心を高めることができます。また、スクールカウンセラーを紹介する機会にもなります。

## スクールカウンセラー実践事例集「虹の架け橋」を参考に!

各学校の実践事例を集めたもので、スクールカウンセラーを効果的に活用するヒントがたくさん含まれています。毎年1回、各学校に配布しておりますので、是非参考にしてください。





# 児童の望ましい人間関係をつくるために

児童には、互いに尊重し合い、認め合い、助け合う態度を身に付けさせたいものです。

そのためには、望ましい人間関係づくりのためのプログラムを実践してみましょう。

スクールカウンセラーも、次のようなサポートをすることができます。

## 望ましい人間関係づくりのためのプログラム

- アサーショントレーニング
- ストレスマネジメント
- 構成的グループエンカウンター
- ソーシャルスキルトレーニング など

※いじめゼロマニュアル  
(平成20年仙台市教育委員会発行)参照

- 計画の作成や実施の手順等に関するアドバイス
- プログラム実施の際の、教員、児童に対する援助
- 実施後のアドバイス など



望ましい人間関係づくりのためのプログラムは、一つの学級だけでやるよりも、**学校全体で取り組む**ことにより、効果が上がります。

スクールカウンセラー担当教員が、管理職、生徒指導主任等、スクールカウンセラーと相談をしながら、教育計画や研修計画に位置付け、継続的に実施していくといいでしょう。

# 関係機関との連携を図るために

児童を支援するために、場合によっては、関係機関との連携が必要になります。スクールカウンセラーのコンサルテーションにより、児童や保護者を関係機関につなぐきっかけになることもあります。

学校とスクールカウンセラー、関係機関が十分に**情報交換をしながら、役割を分担**して、児童や保護者へ適切に対応できるようにしましょう。



## ADVICE!

中学校と情報交換をする際には、中学校のスクールカウンセラーにも同席してもらいましょう。小学校の教員やスクールカウンセラーが、児童や保護者とのかかわりを詳しく伝えることで、中学校と連携しながら、より適切な対応ができるようになります。

## 小学校におけるスクールカウンセラーの効果的活用

発行／仙台市教育委員会

発行年月／平成22年6月